



新年のごあいさつ

社会福祉法人 日身体障害者団体連合会
あべ かずひこ
会長 阿部 一彦



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、4月に改正障害者差別解消法の施行により、事業者に対する合理的配慮の提供が義務化となりました。8月にはパリパラリンピックで勝敗を越えたパラアスリートの活躍に日本中が心躍りました。社会における障害及び障害者に対する認識を考えさせる、あるいは変える、またとない機会となりました。

一方で、能登半島を襲った地震と豪雨による被害に、深い悲しみとともに、過去の災害時の教訓を活かすことができなかつたことに深い憤りを感じています。

今日、障害関係の施策の推進が図られるなかにおいて、障害を理由とする偏見や差別等に対する社会の認識はまだ不十分であると感じております。そうしたことから、社会生活のあらゆる場面において、障害及び障害者に対する一層の理解啓発を促進させるため、私たち自身が発信者として、粘り強く、地域で活動していくことが求められると考えます。

日身連は、全国の加盟団体の皆さまとのつながりを大切に、60余年に渡り歩んで参りました。新たな年を迎え、皆さまとの深い連携のなかで、日身連への期待に反することなく、新たな気持ちで、日身連並びに加盟団体の一層の発展のため、さらには地域共生社会の実現をめざして、会の長として鋭意努力して参る所存です。引き続き、日身連の活動に対しまして、特段のご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

結びに、すべての皆さまにとって、より良き一年となりますことを祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。



発行所
社会福祉法人
日身体障害者団体連合会
(中央障害者社会参加推進センター)
発行人 阿部 一彦
東京都豊島区目白3丁目4の3
ディアダックビル4階
TEL 03-3565-3399(代)
FAX 03-3565-3349
<https://www.nissinren.or.jp>
Japanese Federation of
Organizations of the
Disabled Persons (JFOD)
年間購読料 正会員1部 300円
非会員1部 1000円

厚生労働省では、障害者や高齢者、患者等が宿泊施設へ滞在する

宿泊施設の接遇研修内容の改善に向けたヒアリングへ参加

際、どのようなサービス提供が必要か、具体的な接遇内容をできる限り盛り込んだ研修ツールを検討するために、宿泊施設向け接遇研修ツール作成等のための検討会を設置し、障害者団体、旅館業者、学識経験者等を構成員に議論が進められています。また、必要に応じて、構成員以外の障害者関係者団体と議論するためのワーキンググループを置き、今回、12月2日(月)と5日(木)の2日間にわたって、日身連をはじめ、障害者・高齢者・患者等の13関係団体を対象としたヒアリングが行われました。

ヒアリングに先駆け、日身連では加盟団体の協力を得てアンケート調査を行い、様々な意見や提案が寄せられました。滞在中にどのような支援を必要とするかといった意見をはじめ、当事者と向き合い、当事者が求めることを理解・把握してもらいたい、障害特性に対応した接遇のあり方を考えてもらいたいといった意見のほか、施設設備の改善についてや宿泊施設従業員の方との良好なコミュニケーションを構築する必要性について意見がありました。そのほか「団体旅行で健常者を含めることを条件とされた」といった具体的な事例も寄せられました。

2日に行われたヒアリングには阿部一彦会長が出席し、調査結果を踏まえて、接客シーンごとの接遇に関する困りごとや提案など、事例を交えながら意見を述べました。